



平成30年度桐生市景観講演会 「桐生の審美的な位相に関する考察」

桐生市 都市整備部 都市計画課

桐生市では、景観行政団体になった平成25年以降、景観形成に関わる様々な取組みを実施しており、そのひとつとして、多くの方に景観を意識し考えていただく機会となるよう、景観講演会を開催しております。3回目となる今回は、桐生市芸術大使である画家の山口晃さんを講師に迎え、3月16日(土)に桐生市立中央公民館市民ホールにてご講演いただきました。

また、講演会の関連イベントとして、「山口晃 ポスター展」を約1ヶ月にわたり市役所市民サロンにて開催し、山口さんがこれまでに関わった個展、講演会等のポスター14点、故郷桐生を描いた作品「ショッピングモール」のレプリカ展示と併せて、桐生市の景観の取組みを紹介しました。会場は連日多くの方で賑わい、山口さんの世界観を体感するとともに、景観まちづくりを感じていただく機会となりました。

さて、講演会ではまず「市の取組み」を説明し、「景観とは人が見ることによる現象」で、「良い景観とは、見たいものが見えやすい状態」にあること、「見たいものが見える視点と、見えやすい角度である見込角を考えていくことが重要である」といった景観形成のポイントもお伝えしました。

次に、「桐生の審美的な位相に関する考察」と題し、ご自身の作品を通して、画家としての視点からユーモアいっぱいにお話しいただきました。「人は見たいものを見る習性があり、主体となるものを抜き出して描く絵画と通じものがある」とし、「構図を大切にすることで、その場に無いものまでも描き、絵に閉じ込めた力を逃すことなく循環(色の濃淡による印象の変化、見る方の視線がどのように移ろうかなど)させる」と作品づくりのポイントも語っていただきました。構図を意識し、魅力的な空間づくりに繋げていくことは、景観を考える上でとても参考になりました。

また、山口さんがタイトルバック画を手掛ける、現在放送中のNHK大河ドラマ「いだてん ～東京オリンピック囃～」に関連して、現在の日本橋への想いを「観照(思い込みを排除し、虚心に見ること)」という表現で語り、「自分の感覚器官を最大限に働かせ、思い込みを外すと判断のもう少し奥にある所で心が動き出す」とし、画一的な視点でなく、歴史的な背景など個々の状態を見極め、そこにある美を見出すことが「景観づくり」に繋がると語られておりました。

結びに、桐生のまち並みや何げない路地には、素材を少し変えてみることで、大きな手間(資金)をかけずに今あるものを魅力的にする「潜在力」があると写真を交えながらご紹介いただきました。

アートの世界を通して景観まちづくりの手法を多角的にお話しいただき、多くの方が景観を身近に感じていただくきっかけとなる、楽しい講演会になりました。

